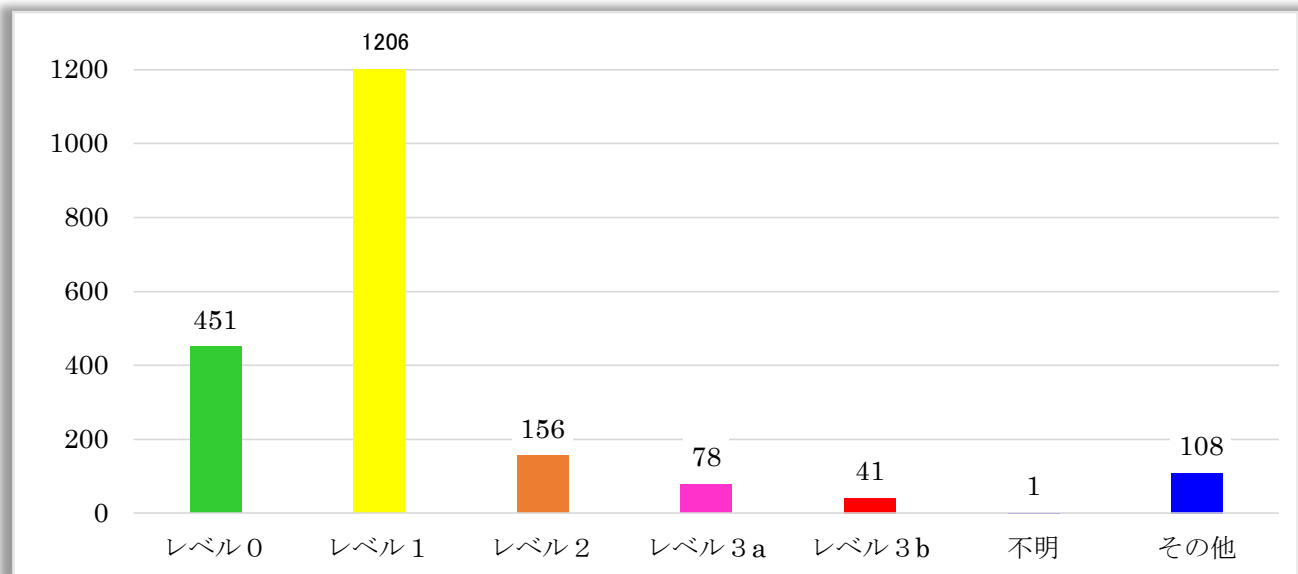


2017 年度 年度集計報告(2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日)

【報告概要】

病床数 293 床の約 7 倍（5 倍以上が好ましいといわれている）であり院内のインシデント傾向を把握するための報告数としては十分である。オカレンス事例や手術バリエーション報告書及び死亡事例報告書の提出が徹底され、発生した事象は全て医療安全室で把握できている。レベル 3b の事例は医師が直接行う手術や治療に関連するものが多く、発生頻度は昨年度 2.5%から 2.0%と減少した。いずれも想定される合併症・偶発症であり、発生は回避することが困難な事例であると検証された。

1. 報告総数 2041 件 （インシデント 1891 件 アクシデント 41 件）

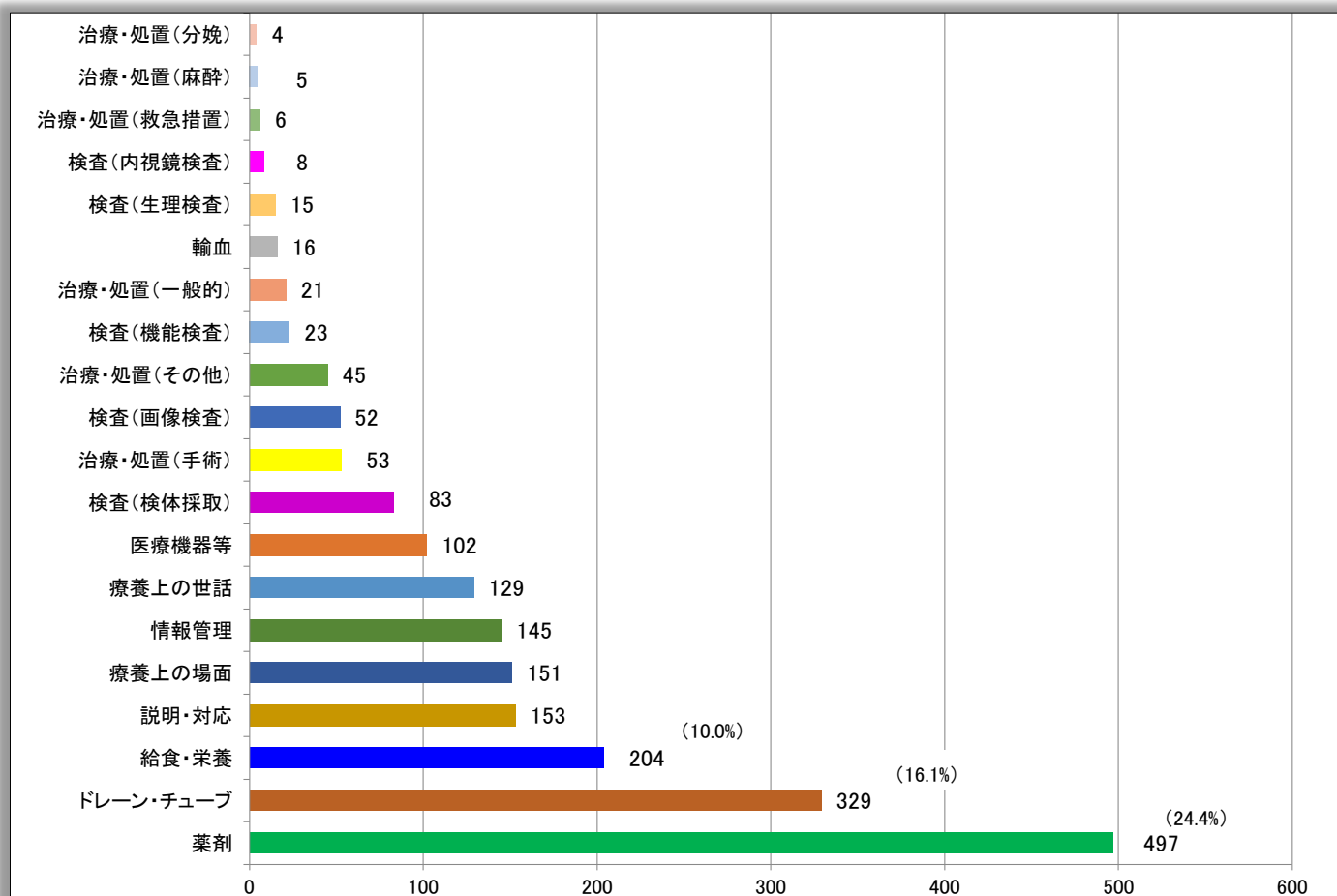


* 参考

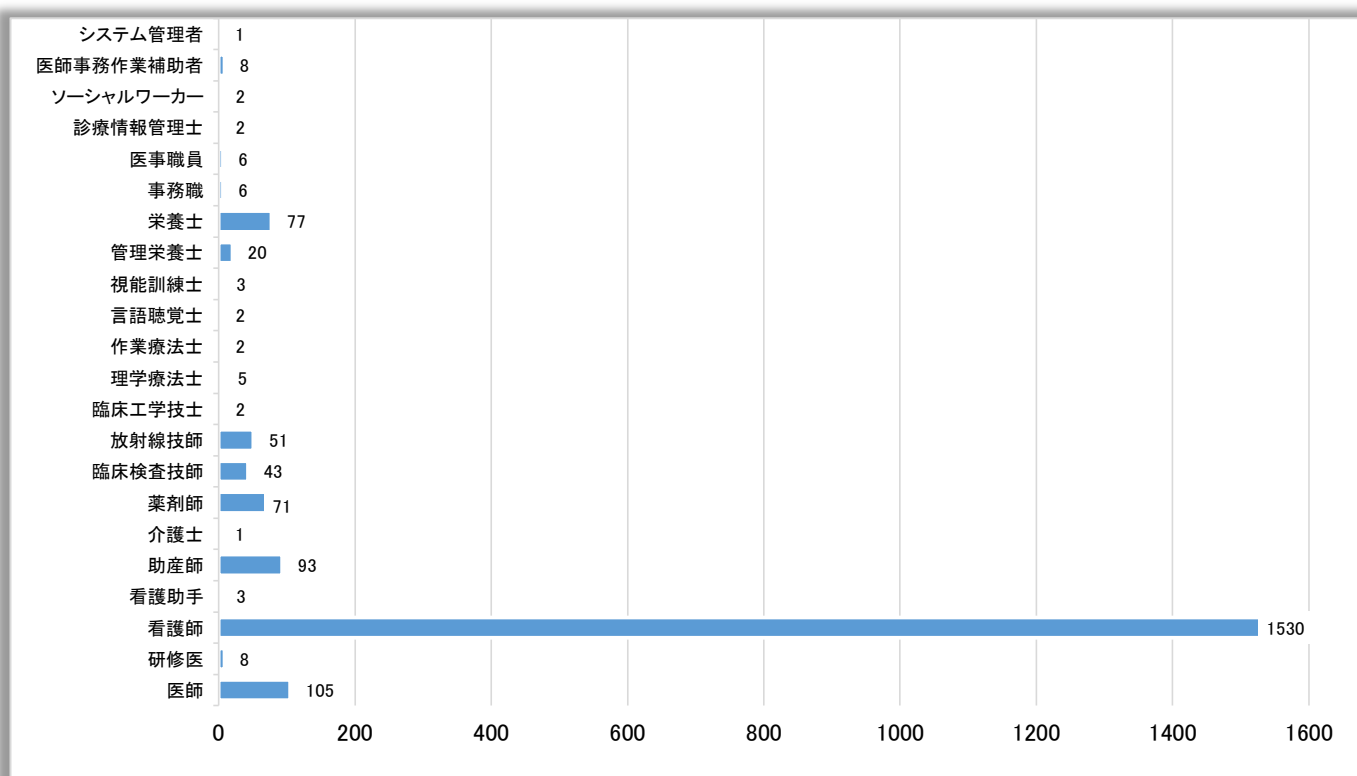
身体影響度のレベルを以下の0～5レベルに分類する。

レベル	障害の継続性	障害の程度	障害の内容
レベル0	—		不適切な医療行為等が実施されなかったが、実施されていたら何らかの影響を与えた可能性がある場合
レベル1	なし		何らかの影響を与えたが、被害がなかった場合
レベル2	一過性	軽度	観察強化、バイタルサインの変化又は検査の必要性が新たに生じた場合
レベル3a		中等度	簡単な処置や治療を要した場合 (消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)
レベル3b		高度	濃厚な処置や治療を要した場合 (バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など)
レベル4a	永続的	軽度～中等度	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない場合
レベル4b		中等度～高度	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う場合
レベル5	死亡		死亡した場合

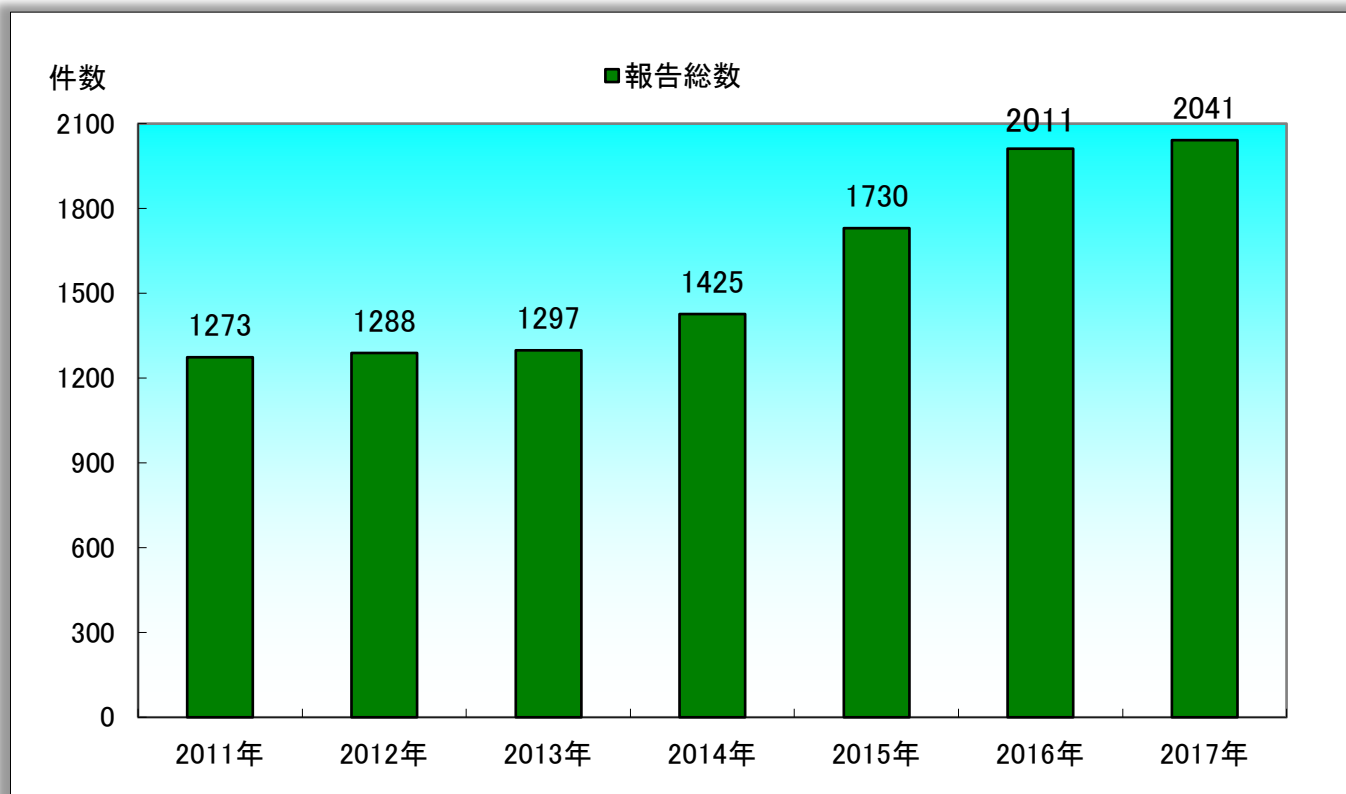
2. 報告内容別件数



3. 報告者職種別件数



4. 報告件数年度別推移



5. レベル別報告数 年度別推移

